

# グローバル・エリアスタディーズプログラム プログラム専門科目

区分	英語対応	科目名 (単位)	授業の概要
プログラム専門科目 (基盤科目)	○	貧困問題と国際協力 I (1単位) Poverty Issues and International Cooperation I	本科目は、貧困問題とは何か、どのような貧困問題があるのか、国際協力はどのように行われているのか、政府による援助 (ODA)、世界銀行や国連など国際機関援による援助、国際 NGO による援助を事例に考える。持続可能な開発目標 (SDGs)、パートナーシップによる援助、援助効果の議論も取り上げて考える。本当の国際貢献のためにはどのような方法や援助が良いのかを考察する。履修生は事前の文献読解、レジュメの用意、議論への参加、発表を行う NGO ことが求められる。テキストは、追って指示する。グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には、本科目とともに「貧困問題と国際協力 II」を履修し、より専門的な知識を修得することが求められる。
	○	防災と国際協力 I (1単位) Disaster Management and International Cooperation I	防災は災害が多発する日本だけでなく世界的に大きな課題である。本講義では防災と国際協力をめぐる論点や現状、及び課題を解説し、国内外の事例を用いて議論をすすめる。具体的には、災害発生前の備え、災害発生時後の緊急、復旧、復興期の取り組みや対策を含む「防災サイクル」の考え方を視点に、近年国内外で発生した大災害の事例を検証する。特にこれまでの開発途上国で防災国際協力事業に携わった経験を生かして、海外の被災地の現状や特性について解説し、日本、ベトナム、及びスリランカ等で実際に行った先進事例を用いて議論する。
	○	環境問題とガバナンス I (1単位) Environmental Governance I	グローバル化が進行する今日、国家は地球規模の環境問題と局地的な環境問題に同時に対応することを求められている。問題は深刻化する一方、持続可能な発展に向けての様々な画期的取組みも、先進国・途上国双方において進行中である。授業では、経済活動に伴う環境問題の受苦・受益の関係性を構造的に捉え、社会的ジレンマを解消していくために、国際・国内社会がどのように向ってきたかを学び、持続可能な発展にむけたガバナンスの在り方について考察する。
		情報ネットワークと技術 I (1単位) Information and Network Technology I	今日の情報化社会において、情報ネットワークシステムはコミュニケーションの基礎となりつつあり、インターネットとして広く利用されています。本授業では、グローバル社会の変容を理解する新しい手段の一つとして情報ネットワークシステムを捉え、ひとびとが情報ネットワークを利活用する現状と問題点及び将来における可能性についてさまざまな角度から考察します。  具体的には、情報ネットワークシステムモデルとインターネット、インターネット上で展開されているさまざまなサービス、などの授業を計画しています。

区分	英語 対応	科目名 (単位)	授業の概要
プログラム専門科目 (基盤科目)	○	人間の安全保障と国連 I (1 単位) Human Security and the United Nations I	本講義では、人間の安全保障 (human security) 概念の歴史的展開について検討しつつ、同概念が主に国連の安全保障分野の意思決定や活動に与えている影響について、国際関係論、国際機構論の手法を用いながら検討する。具体的には、関連する先行研究に加えて、国連機関の報告書等を資料として用いつつ、国連安全保障体制における文民の保護の位置づけとその実行について、国連平和維持活動(PKO)や「保護する責任 (responsibility to protect)」との関係性に注目しつつ研究する。
	○	国際人権保障と平和構築 I (1 単位) International Protection of Human Rights and Peacebuilding I	<p>本科目では、国際人権法、国際人道法および国際刑事法が形成され発展してきた経緯を概観し、国連、各地域機構および日本で、人の権利保障についての問題がどのように取り組まれてきたのか普遍的な視座から理解する。さらに、紛争下における大規模な人権侵害の具体的な事例を取り上げることで、理論上および実務上の様々な課題に対し、社会と私達がどう向き合うべきか分析、検討および発信する能力の一端を身につけることを目的とする。</p> <p>本科目は、紛争後の平和構築において国際的な人権保障システムが如何に機能しているのか、また如何なる課題に直面しているのかを専門的に考察し、分析するためのスキルを習得するための基本的な枠組みを理解することが目的である。特に、国際人権法、国際人道法および国際刑事法の形成過程とこれらの法律に関わる国際的な裁判所、国際機関および市民社会などの多様なアクター達とのつながりに焦点を当てる。</p> <p>グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には、本科目とともに「国際人権保障と平和構築Ⅱ」を履修し、より専門的な知識を修得することが求められる。</p>
	○	Globalization and Project Management I (1 単位)	国際開発における、プロジェクト形成のための事前調査、プロジェクトの形成から開始準備および実施、そして終了までの一連のプロセスを学ぶとともに、プロジェクト実施におけるモニタリングと評価手法を、事例を交えて紹介し、案件形成能力および実践力を付けることを目指す。

区分	英語 対応	科目名 (単位)	授業の概要
プログラム専門科目 (基盤科目)	○	グローバル教育と開発教育 I (1 単位) Global Education and Development Education I	<p>今や73億人を越える人々が暮らす地球社会は、開発や環境、平和や人権、文化や福祉、資源やエネルギーなどに関わる地球的規模の諸問題に直面しており、こうした諸問題を早急に解決していくことが人類共通の地球的課題 (global issues) とされている。こうした諸問題の改善や解決に向けては、長年にわたって各国政府や国連機関をはじめ、NGOなどの市民組織による国際協力活動が展開され、その是非や賛否が常に論じられてきた。本講では、こうした地球的諸問題の理解や解決に向けて、主に「先進国」内で実施されてきた教育実践の試みとして、グローバル教育や開発教育を取り上げ、その理念や実践に着目しながら、オルタナティブな教育としての今後の役割や可能性について検討していく。</p> <p>具体的には、地球的諸問題の概要や鍵概念を確認した上で、グローバル教育や開発教育に影響を及ぼした国際開発論やNGO等による国際開発協力との関連、英国や日本におけるグローバル教育や開発教育の歴史や現状などについて解説する。</p>
	○	国際 NPO 起業とその実践 I (1 単位) International NPO Establishment and Practices I	<p>本科目では、栃木の NPO、国際協力、国際交流に関わる NPO に焦点をあて、国際 NPO の起業の理念、それぞれの団体における起業の方法と活動、持続可能性、国際貢献と地域貢献の事例について、国際協力や地域の NGONPO の経験者を講師に招いて学ぶ。グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には、本科目とともに「国際 NPO 起業とその実践 II」を履修すること、国際 NPO の具体的な実践活動を通じてより専門的な知識を修得することが求められる。</p>
プログラム専門科目 (グローバル・スタディーズ科目)	○	貧困問題と国際協力 II (1 単位) Poverty Issues and International Cooperation II	<p>本科目は、貧困問題とは何か、どのような貧困問題があるのか、国際協力はどのように行われているのか、政府による援助 (ODA)、世界銀行や国連など国際機関援による援助、国際 NGO による援助を事例に考える。持続可能な開発目標 (SDGs)、パートナーシップによる援助、援助効果の議論も取り上げて考える。本当の国際貢献のためにはどのような方法や援助が良いのかを考察する。履修生は事前の文献読解、レジユメの用意、議論への参加、発表を行うことが求められる。テキストは、追って指示する。また、フィールドワークとして、国際協力機関や国際 NGO を訪問しインタビューを行うこともある。過去には、アジア学院を訪問した。グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には、本科目とともに「貧困問題と国際協力 I」を履修し、より基礎的な知識を修得することが求められる。</p>

区分	英語 対応	科目名 (単位)	授業の概要
プログラム専門科目 (グローバル・スタディーズ科目)	○	防災と国際協力Ⅱ (1単位) Disaster Management and International Cooperation II	防災は災害が多発する日本だけでなく世界的に大きな課題である。日本で発生する災害と海外、特に開発途上国で発生する災害の被害や復旧、復興過程には違いがあるのだろうか。本講義では開発途上国で災害が発生する社会経済的な背景や、貧困層や弱者に被害が集中する格差、防災国際協力の課題や現状、今後のあり方について議論する。その過程で、緊急援助ワークショップやジェンダーワークショップ等を行い、被災政府、国連機関、国際NGO、ボランティアといった様々な立場から、今後の防災国際協力のあり方を議論する。
	○	環境問題とガバナンスⅡ (1単位) Environmental Governance II	グローバル化が進行する今日、国家は地球規模の環境問題と局地的な環境問題に同時に対応することを求められている。問題は深刻化する一方、持続可能な発展に向けての様々な画期的取組みが、先進国・途上国双方において進行中である。しかし、その取り組み内容や運用は、国によっても地域によっても大幅に異なっている。授業では、各国・地域の差異を説明するための基本的な政治学上の概念を学んだ上で、循環型社会形成や再生可能エネルギーを事例に、複数事例をとりあげて比較対照し、理解を深めていく。
		情報ネットワークと技術Ⅱ (1単位) Information and Network Technology II	<p>情報化社会において、新しい技術が次々と生まれてきます。AI (人工知能)、Big Data、ブロックチェーンなど。これらの技術の枠組みや基本的仕組み、グローバル社会との関連性、各種技術の応用される現状と課題等をテーマに考察していきます。</p> <p>本科目は「情報ネットワークと技術Ⅰ」を履修した者のみが履修可能であり、「情報ネットワークと技術Ⅰ」の知識を前提として進められる。グローバル社会における情報ネットワークとその技術をより高度な専門性の観点から学習するための科目である。</p>
	○	人間の安全保障と国連Ⅱ (1単位) Human Security and the United Nations II	本講義では、人間の安全保障概念が武力紛争下の文民の保護といった安全保障分野のみならず、原発事故や大規模災害時の人権保障や、ジェンダー格差に関わる社会的課題に対応する際にも重視されるようになった経緯と、実際の適用事例について、国際機構論、平和研究の手法を用いて検討する。具体的には、関連する先行研究を踏まえつつ、国連人権機関の一次資料やNGOの活動についても射程を入れつつ、平時における人間の安全保障の課題について研究する。

区分	英語 対応	科目名 (単位)	授業の概要
プログラム専門科目 (グローバル・スタディーズ科目)	○	国際人権保障と平和構築Ⅱ (1単位) International Protection of Human Rights and Peacebuilding II	<p>本科目では、国際人権法、国際人道法および国際刑事法が形成され発展してきた経緯を概観し、国連、各地域機構および日本で、人の権利保障についての問題がどのように取り組まれてきたのか普遍的な視座から理解する。さらに、紛争下における大規模な人権侵害の具体的な事例を取り上げることで、理論上および実務上の様々な課題に対し、社会と私達がどう向き合うべきか分析、検討および発信する能力を身につけることを目的とする。</p> <p>本科目は、「国際人権保障と平和構築Ⅰ」での学びを踏まえ、紛争後の平和構築において国際的な人権保障システムの役割についての理解を更に促進し、その課題と分析を可能とするための高度に専門的な知識を修得するための科目である。国連平和維持活動が展開している地域を中心とした事例研究に取り組んだ後に、国際的に評価の高い論文や学術書を通して、批判的かつ建設的に考察することで、さらなる実践力の向上も目指す。</p> <p>本科目は「国際人権保障と平和構築Ⅰ」を履修した者のみ、履修可能であり、「国際人権保障と平和構築Ⅰ」の知識を前提として進められる。平和と人権保障のつながりをより高度な専門性の観点から学習するための科目である。</p>
	○	Globalization and Project Management II (1単位)	<p>組織運営の観点からプロジェクト・マネージャーとしてのリーダーシップおよびプロジェクト・メンバーの能力を効果的に引き出すための人材育成の知識と技術も体系的に学ぶ。また、国際開発の現場においての多文化および多言語な職場環境を想定し、異文化コミュニケーションの知識も学び、実際に国際開発の現場において実務的に応用できることを目指す。</p>
	○	グローバル教育と開発教育Ⅱ (1単位) Global Education and Development Education II	<p>今や73億人を越える人々が暮らす地球社会は、開発や環境、平和や人権、文化や福祉、資源やエネルギーなどに関わる地球的規模の諸問題に直面しており、こうした諸問題を早急に解決していくことが人類共通の地球的課題 (global issues) とされている。こうした諸問題の改善や解決に向けては、長年にわたって各国政府や国連機関をはじめ、NGOなどの市民組織による国際協力活動が展開され、その是非や賛否が常に論じられてきた。本講では、こうした地球的諸問題の理解や解決に向けて、主に「先進国」内で実施されてきた教育実践の試みとして、グローバル教育や開発教育を取り上げ、その理念や実践に着目しながら、オルタナティブな教育としての今後の役割や可能性について検討していく。</p> <p>具体的には、グローバル教育のひとつの出発点となったユネスコの国際理解教育やその後のESDを含む国際教育政策をはじめ、欧州各国が推進してきたグローバル教育の政策や実践について、関係文書を参考にしながら検討する。</p>

区分	英語 対応	科目名 (単位)	授業の概要
プログラム専門科目 (グローバル・スタディーズ科目)	○	国際 NPO 起業とその 実践 II (1 単位) International NPO Establishment and Practices II	<p>本科目では、栃木の NPO、国際協力、国際交流に関わる NPO に焦点をあて、国際 NPO の起業の理念、それぞれの団体における起業の方法と活動、持続可能性、国際貢献と地域貢献の事例について、国際協力や地域の NGONPO の経験者を講師に招いて学ぶ。グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には、本科目とともに「国際 NPO 起業とその実践 I」を履修していること、国際 NPO の具体的な実践活動を通じてより専門的な知識を修得することが求められる。</p>
プログラム専門科目 (エリアスタディーズ科目)		タイの開発と地域社会 I (1 単位) Development and Community in Thailand I	<p>今日の多様な世界を構成する一地域として東南アジアとりわけ日本との関係の深いタイを取り上げ、開発と地域社会の関係という視点から、この地域が有する特徴を理解する。タイは日系企業の進出などにより工業化が進み、同時にバンコクを中心に都市化が進んでいる。急激な工業化・都市化にともない地域社会には種々の深刻な問題が発生するようになっている。</p> <p>本科目では、タイの開発と地域社会の関係を専門的に理解・分析するための導入として、政府による地域社会開発政策、タイの工業化・都市化と地域社会の変化の実態などの基礎的な知識を修得する。いずれのトピックもグローバル化を理解する上で重要であり、これらの学習をつうじて、グローバルな観点から社会をデザインする能力を涵養する。</p>
		タイの開発と地域社会 II (1 単位) Development and Community in Thailand II	<p>今日の多様な世界を構成する一地域として東南アジアとりわけ日本との関係の深いタイを取り上げ、開発と地域社会の関係という視点から、この地域が有する特徴を理解する。タイは日系企業の進出などにより工業化が進み、同時にバンコクを中心に都市化が進んでいる。急激な工業化・都市化にともない地域社会には種々の深刻な問題が発生するようになっている。</p> <p>本科目では、「タイの開発と地域社会 I」での基礎的な理解をふまえて、タイの開発と地域社会の関係を専門的に理解・分析する。政府による地域社会開発政策が具体的にどのように展開され、それを地域社会側がどのように受け止め、また主体的に捉え返しているのか、多くの事例をふまえて、分析する。その際、行政 (国家および自治体)、住民 (地域住民組織)、NGO などアクター間の関係に注目することにより、タイ社会の構造的・主体的な特質への理解を深める。いずれのトピックもグローバル化を理解する上で重要であり、これらの学習をつうじて、グローバルな観点から社会をデザインする能力を涵養する。</p>

区分	英語 対応	科目名 (単位)	授業の概要
プログラム専門科目 (エリアスタディーズ科目)	○	東アジアの国際政治 と歴史 I (1 単位) History of International Relations in East Asia I	<p>東アジア国際政治の歴史を専門的に理解・分析するための導入科目であり、当該地域の国際秩序が歴史的にどのように形成されてきたのかを専門的に理解・分析するための基本的知識を修得することが目的である。</p> <p>(1) 世界戦争と戦後平和秩序という近現代国際政治史全体のダイナミズム, (2) 第二次世界大戦後の地域秩序の特徴, (3) 冷戦後の地域秩序の特徴について理解を深める。</p> <p>いずれのトピックもグローバル化を理解する上で重要であり、これらの学習をつうじて、グローバルな観点から社会をデザインする能力を涵養する。</p>
	○	東アジアの国際政治 と歴史 II (1 単位) History of International Relations in East Asia II	<p>第二次世界大戦後の東アジア国際政治史を具体的に実証分析するための高度に専門的な知識を修得する。</p> <p>専門書籍・論文を通じて史的展開の全容を理解するほか、各自が具体的事例を一つ選び、一次資料を使いながら史の実証を進めるための知識と手法を学ぶ。いずれのトピックもグローバル化を理解する上で重要であり、これらの学習をつうじて、グローバルな観点から社会をデザインする能力を涵養する。</p>
		東アジアの歴史と文化 I (1 単位) History of Cultural Exchange in East Asia I	<p>今日のグローバル化が進む多様な世界を構成する一地域として東アジア地域を取り上げ、主に歴史と文化の側面から、この地域が有する特徴を理解する。その上で、特に東アジアの中でも中国に着目し、中華世界を周辺地域から見た場合の文化論をいかなるフレームワークで構築すべきかについて、講義と討論、資料と論文の精読、そして受講者からの報告などを交えながら検討を加える。具体的には、(1) 東アジアに広く普及した宗教である仏教の東アジア地域における相互接触、交渉、衝突、変容、受容過程、(2) 近代東アジアの歴史的展開、(3) 日本による植民地統治(台湾)と宗教との関連性、について理解を深める。いずれの内容もグローバル化を理解する上で重要な事象であり、これらの学習をつうじて、グローバルな観点から社会をデザインする能力を涵養する。</p>
		東アジアの歴史と文化 II (1 単位) History of Cultural Exchange in East Asia II	<p>今日のグローバル化が進む多様な世界を構成する一地域として東アジア地域を取り上げ、主に歴史と文化の側面から、この地域が有する特徴を理解する。</p> <p>その上で、国際的に評価の高い論文・学術書のレプリケーションを通じて、東アジア地域を対象とする歴史文化研究の知識と手法を理解し、グローバルな観点から社会をデザインする能力を涵養する。</p>

区分	英語 対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目 （エリアスタディーズ科目）		日本の自然と地域生活Ⅰ（1単位） Nature and Local Life in Japan I	<p>「僻地」や「田舎」と呼ばれる日本の村落社会においても、グローバル化の影響は大きい。モノ・ヒト・カネの流れはもちろん、そこに住む人々の考え方や行動にも大きな影響を与えている。そのため、現在の村落社会は、外部からイメージされるような固定した一枚岩の存在ではなく、多様かつ複雑な社会となっているのである。</p> <p>村落社会学や人類学、民俗学などの学問分野において、村落社会を研究するためには、この多様かつ複雑な社会を理解しなければならない。そのためには、現地を深く知るためのフィールドワークは不可欠であるが、同時に過去の学問成果に対する知識も不可欠である。そこで、本講義では、当該学問の研究史を確認し、その流れを理解することを目的としている。このことは、グローバル化の中における日本の学問を理解することであり、グローバルな観点から社会をデザインする能力の養成へとつながるものである。</p> <p>なお、グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には、本科目とともに「日本の自然と地域生活Ⅱ」を履修し、より専門的な知識を修得することが求められる。</p>
	日本の自然と地域生活Ⅱ（1単位） Nature and Local Life in Japan II	<p>本科目は、「日本の自然と地域生活Ⅰ」で学んだ、村落社会学、人類学、民俗学などの学問成果の流れをもとに、その中でもっとも興味深いと思われる古典を選択し、輪読することを目的としている。</p> <p>古典となっている研究は、長く読み継がれてきたものであり、その後の学問に深い影響を与えているものである。それを深く読み込み、理解することは、学問を行うものにとって基本的なことである。そのうえで、ただ理解するだけでなく、グローバル化の進んだ現在の視点から検討する。このことによって、批判的精神を養成すること、グローバルな観点から社会をデザインする能力を涵養することを、この授業では目的としている。</p> <p>なお、本科目は「日本の自然と地域生活Ⅰ」を履修した者のみ、履修可能であり、「日本の自然と地域生活Ⅰ」の知識を前提として進められる。地域生活をより高度な専門性の観点から学習するための科目である。</p>	



区分	英語 対応	科目名 (単位)	授業の概要
プログラム専門科目 (エリアスタディーズ科目)		アメリカの経済と金融 I (1 単位) American Economy and Finance I	グローバルな諸問題を理解する上で、経済問題は重要な分野である。本講義は地域的にはアメリカを、領域的には金融問題に焦点をあてて行う。具体的には 1980 年代以降のアメリカ経済を対象として、(1) 経済発展の概要 (2) 金融と経済発展の関係、といった側面に関し、アメリカ金融・資本市場の概要と特徴、資金循環からみるアメリカ経済の特徴、企業の多国籍展開とその影響、経済発展と金融との関係 (特に新興企業・産業支援という点で金融・資本市場が果たした役割)、資金供給源としての年金基金、等について講義する。いずれのトピックもグローバル化を理解する上で重要であり、これらの学習をつうじて、グローバルな観点から社会をデザインする能力を涵養する。
		アメリカの経済と金融 II (1 単位) American Economy and Finance II	本講義は「アメリカの経済と金融 I」の受講を前提として、引き続き地域的にはアメリカを、領域的には金融問題に焦点をあてて行う。II では、主として制度的側面に焦点をあて、1980 年以降の金融自由化・規制緩和の背景・要因・影響について考察する。この問題はグローバル化の与えた影響を考える上でも重要である。 特に 1980 年代以降の金融自由化・規制緩和における大きな論点の一つは業際規制をめぐるものであったが、それは国際的にも大きな影響を与えたリーマンショックにつながるものでもあり、具体的経過や論点等について検討を加える。
	○	ラテンアメリカの経済と社会 I (1 単位) Economy and Society in Latin America I	本地域における自由主義政策の世紀の後、2000 年代には、複数の政府が、左派ポピュリズム政策がみられた。純粋な自由主義政策から、政府の規制・介入政策への振り子のような動きは、この地域の四半世紀の顕著な特徴として挙げられる。また国内・海外アクターの複数の対応や影響を研究する枠組みにも寄与している。本授業は、ラテン・アメリカ、特にラテン・アメリカの政治・経済・社会に関心のある大学院生を対象とする。
	○	ラテンアメリカの経済と社会 II (1 単位) Economy and Society in Latin America II	ラテンアメリカの経済と社会 I の受講を前提とする。 本授業は、左派から右派への揺れが、腐敗・法治の弱さ・司法の従属性などといったこの地域に特有の問題と関連しているいくつかの国々に焦点を当てる。また、分析はグローバルな政治経済学の最近の傾向内で形成される。本授業は、ラテン・アメリカの政治・経済・社会に関心がある大学院生を対象とする。

区分	英語 対応	科目名 (単位)	授業の概要
プログラム専門科目 (エリアスタディーズ科目)	○	中東地域の政治と社会 I (1 単位) Politics and Society in the Middle East I	<p>今日の多様な世界を構成する一地域として中東地域を取り上げ、グローバルな観点から社会をデザインする能力を養成することを念頭に、主に政治と経済の側面から、この地域が有する特徴を理解する。</p> <p>本科目は中東地域の政治・経済現象を専門的に理解・分析するための導入科目であり、この地域の政治システム、経済・産業構造の基本を理解し、これを専門的に理解・分析するための基本的な枠組みを修得することが目的である。グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には、本科目とともに「中東地域の政治と社会 II」を履修し、より専門的な知識を修得することが求められる。</p>
	○	東アフリカの社会開発と文化 I (1 単位) Social Development and Culture in East Africa I	<p>授業においては、以下の 4 点について学ぶ。</p> <p>(1) 「社会開発」に関する先行研究に基づき、複数の視点を学ぶ。</p> <p>(2) 東アフリカの地理・言語・民族・歴史・文化について学ぶ。</p> <p>(3) 東アフリカの事例としてタンザニアを取り上げ、社会開発の状況について時代を追って、独立以降、構造調整時代、貧困削減・経済自由化時代における状況を分析する。具体的には、それぞれの時代の政策を精査するとともに、経済、生計戦略、教育、保健などの分野における統計的を分析する。</p> <p>(4) タンザニア国内における地域差とその背景を理解する。</p> <p>いずれのトピックもグローバル化やグローバルな目的を理解する上で重要であり、これらの学習をつうじて、グローバルな観点から社会をデザインする能力を涵養する。</p>
	○	東アフリカの社会開発と文化 II (1 単位) Social Development and Culture in East Africa II	<p>東アフリカ地域をより高度な専門性の観点から学習するための科目である。</p> <p>「東アフリカの社会開発と文化 I」で学んだ基礎的知識をもとに、本授業においては、以下について学ぶ。</p> <p>(1) 開発の歴史における文化の位置づけ。(2) 東アフリカにおけるスワヒリ文化の形成。(3) タンザニアにおける開発と文化の葛藤の事例。</p> <p>その上で、関連したテーマについて受講生はレポートを作成する。</p> <p>いずれのトピックもグローバル化を理解する上で重要であり、これらの学習をつうじて、グローバルな観点から社会をデザインする能力を涵養する。</p>

区分	英語 対応	科目名 (単位)	授業の概要
プログラム専門科目 (エリアスタディーズ科目)	○	特別臨地研究 I (2 単位) Advanced On-site Studies I	<p>グローバルな諸問題の調査及びその解決のための実務能力の養成をめざす。本科目の履修にあたっては、臨地研究に関する基本的な知識・技術の習得を行う地域創生リテラシー科目の「臨地研究」を受講済みであることが求められる。修士論文を提出せずに修了する院生にとっては、本科目は必修科目となる。</p> <p>調査地、調査対象団体、調査方法等の選別・決定については、指導教員と綿密に相談しながらこれを行う。調査開始前に調査実施計画書を作成し、それを指導教員に提出して承諾を得ることが必要となる。</p> <p>1 週間程度 (合計研究時間 30 時間) の現地滞在と、調査実施後に調査報告書の作成と提出が求められる。より長期にわたって調査を実施する場合には、「特別臨地研究 II」を履修し、一貫した調査活動につなげることが可能である。</p>
	○	特別臨地研究 II (2 単位) Advanced On-site Studies II	<p>グローバルな諸問題の調査及びその解決のためのより高度な実務能力の養成をめざす。本科目の履修にあたっては、臨地研究に関する基本的な知識・技術の習得を行う地域創生リテラシー科目の「臨地研究」と、プログラム科目の「特別臨地研究 I」を受講済みであることが求められる。「特別臨地研究 I」の時間を超えてさらに 1 週間程度 (30 時間) の現地滞在を行う場合には、本科目を履修してより綿密な報告書を作成することで、一貫した研究活動を実施することが可能である。</p> <p>「特別臨地研究 I」と同様に、調査地、調査対象団体、調査方法等の選別・決定については、指導教員と綿密に相談しながらこれを行う。調査開始前に調査実施計画書を作成し、それを指導教員に提出して承諾を得ることが必要となる。</p>
プログラム専門科目	○	グローバル・エリアスタディーズ特別演習 (4 単位) Advanced Seminar in Global and Area Studies	<p>主指導教員とのディスカッションを基盤にして、専門知識・技術の深化を図る。これには、境界領域、学際領域の観点から地域社会デザイン分野及び多文化共生の分野に関する内容も含むものとする。主な内容は、次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●世界各地の多様性と国家間・国家-社会・国家と非国家主体関係を普遍的な視座から理解するための古典的な研究を含めた先行研究のサーベイを行い、体系的に専門的知識を理解する。</li> <li>●適切な資料・データ収集や分析手法について演習を行う。</li> <li>●設定した課題に対して、理論と実態・実践との往還を深め、成果の取り纏めを行う。</li> </ul>

区分	英語 対応	科目名 (単位)	授業の概要
プログラム 専門科目	○	グローバル・エリアスタディーズ特別研究 (6単位) Advanced Research for thesis in Global and Area Studies	<p>「グローバル・エリアスタディーズ特別研究」は、修士論文研究の遂行過程を総合的に評価して単位を認定するものである。これには、境界領域、学際領域の観点から地域社会デザイン分野及び多文化共生の分野等に関する内容も含むものとする。グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを専攻する学生の研究テーマは、分析対象地域や分析手法によって様々に異なるため、授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定される。修士論文の作成にあたっては、まず研究テーマを決定し、研究内容を十分に把握した上で、到達目標に向けた種々の内容を、研究の進行状況に応じて指導教員の適切な指導のもとに実施するとともに、研究者として必要な倫理観を養成する。成果は随時とりまとめ、主としてゼミナール形式で指導教員に報告する。1年次前期と2年次の前期には、研究の進捗状況に関する報告を行い、2年次後期には研究成果の模擬発表を行う。これらの報告会・発表会には、プログラム担当教員が参加し、助言と評価を行う。</p>
	○	グローバル・エリアスタディーズ実践プロジェクト (6単位) Non-thesis Research Project in Global and Area Studies	<p>本科目は、修士論文を課さないコースワークを選択する学生が受講し、グローバルな諸問題と結びつく実践的活動、あるいは実践知の解明を、受講者の出身組織が抱える課題あるいはコースの専門教員が掲げる特定課題に沿って実施するとともに、研究者として必要な倫理観を養成する。コースワークを希望する学生は、入学時点で、上記の課題に沿って、自らの2年間のプロジェクト計画を提示することが求められる。プロジェクト計画の作成とその実施、修正必要箇所の確認と方針の更新を繰り返し、1年次前期の間にプロジェクト計画を確定させる。主に1年次後期～2年次前期にかけてプロジェクトを実施し、2年後期に実施したプロジェクトの成果についての検証を行う。プロジェクトの実施や成果の検証に必要な文献検討を通じて、成果に結びつくプロジェクトを立案・実施する能力を養う。</p> <p>受講者は、プロジェクトを通じて遂行されたグローバルな諸問題の解決と結びつく実践的活動、あるいは実践知の解明の成果を、付随する作品等を含め課題研究報告書としてまとめ上げる。具体的には、当該実践的活動あるいは、学的解明を先行する研究成果や活動報告の中に位置づけた上で、その対象・方法・プロセスなどを説明した上で、分析・考察・報告などを詳述し、結論づける。以上の作業を担当教員の指導の下に実施する。</p>